

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption, interleukin-6 and apolipoprotein E genotypes, and concentrations of interleukin-6 and serum amyloid P in older adults.</p> <p>成人高齢者における、飲酒、インターロイキン6とアポリポプロテインEの遺伝子型、インターロイキン6の濃度と血清アミロイドPについて</p>	
執筆者	
Mukamal KJ, Jenny NS, Tracy RP, Siscovick DS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2007 Aug;86(2):444-50.	
キーワード	
飲酒、炎症性マーカー、疫学	
要 旨	
<p>背景： 飲酒とインターロイキン6 (IL-6) と血清アミロイドP (SAP) の関連は不明である。</p> <p>目的： 飲酒とアポプロテインE (apoE) とIL-6プロモーター (IL-6-174G->C) 遺伝子多型がIL-6とSAP濃度に相関するかどうかを検討した。</p> <p>方法： Cardiovascular Health Studyにおいて、2454人の成人高齢者を対象に、ビール、ワイン、ウイスキーの飲酒状況を聴取した。血中IL-6とSAPを測定した。</p> <p>結果： 飲酒は、apoE4陰性またはIL-6C陽性の患者では、IL-6濃度は関連しなかった。しかし、apoE4陽性でIL-6C陰性の患者では正の相関が見られた (両方のトレンドP=0.02)。SAPにおける相関関係は全アルコールでは見られなかったが、ウイスキーでその傾向があった。</p> <p>結論： 循環器疾患の治療を受けていない成人高齢者において、特定のIL-6プロモーターとapoE対立遺伝子でIL6濃度と飲酒の正の相関が認められた。遺伝子の多型性は飲酒の循環器疾患への影響について考察する上で、検討するべきである。</p>	